

## VISUALIZATION FOR C++ 6.1 RELEASE NOTES

November 2016

このリリースノートは、Rogue Wave Visualization 6.1 と Rogue Wave Visualization 6.0 の間の主な変更点を記述しています。

以下の情報が含まれています。

- 新しい機能
- 新しいプラットフォーム
- サポート対象外となったプラットフォーム
- 非推奨となったプラットフォーム

### 新しい機能

#### タッチスクリーンのサポート

基本的なタッチインタラクションが Views の manager views と container からデフォルトで利用可能になりました。以下のジェスチャーが操作可能です。

- 1 本指または 2 本指でのパン: コンテンツを移動
- 2 本指でのピンチ/アンピンチ: コンテンツをアンズーム/ズーム
- 2 本指での回転: コンテンツの回転

#### X Windows 上の Xft を使ったテキストのアンチエイリアシングとスケーラブルフォント

X Window プラットフォーム上で、Views によるフォントのレンダリングに Xft と FreeType が選択可能になりました。

- これにより文字を描画する際にアンチエイリアシングや透過処理(アルファチャンネル)が利用可能になりました。
- スケーラブルフォントにより、`drawTransformedString()`メソッド、より具体的には [IlvZoomableLabel](#) クラスで変形されたテキストのレンダリングが改善されました。
- この機能を利用するには Views API を追加したり修正する必要はありません。ユーザが行わなければならないことは、単に「fc-list」コマンドから返ってきたフォント名を使用するだけです。例えば、もし fc-list コマンドの出力の中に「Liberation Serif:style=Bold」が含まれていた場合、フォントのディスクリプションとして「%Liberation Serif-12-B」を指定すれば、Views にこのフォントがロードされます。

- この機能はオプションです。これを無効にするには、環境変数 `ILVUSEXFT` がリソースの `UseXft` を `false` にしてください。デフォルトでは `Xft` がインストールされていればこの機能は有効になっています。
- この機能が有効になっているとき、`Views` はまず、フォントの名前やディスクリプションに基づき、`Xft` を使ってそのフォントをロードしようとします。それが失敗したら `Views` は `Xlib` を使ってそのフォントをロードします。その場合、このフォントを使用したテキストレンダリングはアンチエイリアシングや透過処理が適用されません。

## 制限

- `Views` 製品には `Xft` が含まれていません。したがって対象となるプラットフォームに `Xft` がインストールされているときのみこの機能は利用可能です。
- この機能は `shared` フォーマットでのみ、つまりアプリケーションが `Views` の共有ライブラリとリンクしているときのみ利用可能です。この機能は `static` フォーマットでは使用できません。
- この機能は `Linux` と `Solaris` プラットフォームでのみ利用可能です。

## Server ILS XML Schema

ILS の言語 DTD は製品から取り除かれ、等価で完全な XML スキーマに置き換えられました。 `LSHOME/data/ils.xsd` をご覧ください。

XML の名前空間 URI は `http://www.roguewave.com/schemas/server/1.0` へと更新されました。ただし、後方互換であるため、ILS コンテンツを含んだレガシーな XML を使い続けることもできます。

## 更新された機能

### API の更新

`Views` の `IlvManagerViewInteractor::handleEvent()` は `IlBoolean` を返すようになりました。直接的であれ間接的であれ全てのサブクラスの `handleEvent()` 関数のシグネチャは変更されます。この関数はイベントが消費されたとき `IlTrue` を返し、そうでない場合は `IlFalse` を返します。

**Note:** このメソッドをオーバーライドしていた場合、この API 変更によって、お使いのコードを変更する必要があるかもしれません。

### 新しいプラットフォーム

今回のリリースでは新しく追加されたプラットフォームはありません

## サポート対象外となったプラットフォーム

今回のリリースでは対象外になったプラットフォームはありません。